



## RS ウイルス感染症大流行

RS ウイルス感染症とは、RS ウイルス (Respiratory syncytial virus) の感染による呼吸器の感染症です。何度も感染と発症を繰り返しますが、2歳までにほぼ100%の子どもさんが感染するとされています。

RS ウイルス感染症が流行するのは11月～1月の寒い時期とされてきましたが、近年は春～夏でも発症していますので、季節性はやや薄れてきている印象です。感染力は強く注意が必要です。

赤ちゃんは、生まれて半年くらいまではお母さんから移行した免疫抗体があると言われていますが、RS ウイルスに関してはその期間であっても感染症状を引き起こします。RS ウイルス感染症で入院された赤ちゃんのほとんどはお兄ちゃん・お姉ちゃんや、赤ちゃんとは接触した人に「かぜの症状があった。」と話されています。当院でも生後2週間以内にRS ウイルスに感染し、ミルクが飲めないとのことで入院された赤ちゃんが何人かいました。RS ウイルスに感染し、最も重症な症状を引き起こすのは生後6ヶ月未満の赤ちゃんです。特に、低出生体重児や心肺系に基礎疾患や免疫不全のある場合には重症化のリスクが高いとされています。

感染経路としては、RS ウイルス感染症患者から咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びて吸い込むことで感染する飛沫感染が最も多く、呼吸器からの分泌物 (痰や鼻みず) に汚染された手指や環境表面についたウイルスへの接触により、鼻や口などの粘膜を通して感染する接触感染があります。

潜伏期間は2～8日、発熱、鼻汁などのいわゆる「かぜ症状」が数日続き、咳が出てきます。赤ちゃんは鼻呼吸しかできませんので、鼻がつまってしまうとうまくミルクが飲めなくなります。またせっかく飲んだミルクも、咳とともに吐いてしまうこともあり、お母さん方を不安にさせます。十分な哺乳ができないと脱水となり、活気が無くなります。

RSウイルスに対する治療は基本的には呼吸が苦しいときには酸素を投与し、鼻がつまっているときには吸引（鼻水をチューブで吸い取る）してすっきりさせてあげるといった呼吸管理と、点滴による水分投与となります。特効薬ではなく、治療は基本的に症状をやわらげるものとなります。

RSウイルス感染症にかかっても、活気があり、水分摂取ができて食事が摂れていれば自宅で療養となります。RSウイルスに感染した子どもをお世話する成人も感染することがあります。ご家族全員かかってしまうと看病する人がいなくなってしまうので、手洗い、マスク、手指消毒・・・新型コロナウイルス感染症で身につけた日頃の感染対策は続けていきましょう。



まとめ



- RSウイルス感染症は新生児でもかかります。お兄ちゃんお姉ちゃんのいるご家庭は、特に注意してあげてください。
- 生後半年までは特に重症化しやすいので注意が必要です。特に低出生体重児、心臓や肺に基礎疾患のあるお子さんは注意しましょう。
- 基本的な感染対策を続けましょう。

長野赤十字病院 病後児保育室ゆりかごでは、病気や怪我の回復期にあるお子さんをお預かりしています。

感染症の流行期などに「ゆりかごだより」として情報を発信してまいります。

長野赤十字病院  
病後児保育室 ゆりかご  
TEL 026-226-7753



ご利用についての詳細は長野赤十字病院ホームページをご覧ください。

QRコード または 「長野赤十字病院 ゆりかご」で検索